

学びのR

No. 3 (平成29年6月)
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform(改革)」の頭文字です

* ワークショップ型研修で授業改善 ① *

ワークショップ型研修は、「主体的な学び」と「対話的な学び」を通して、「深い学び」を実現していく先生方向けのアクティブ・ラーニングです。教師一人一人が解決すべき課題に主体的に向き合い、協義を通してよりよい解決策を見出す上で有効です。

ワークショップ型研修 その1 「指導案拡大シート」

*学習指導案の「展開」部分を拡大して、付箋を用いながら協議をするものです。

1 授業について色別の付箋に記入する。(各自) (1枚の付箋に1つの内容を書く。)

- 青色の付箋 → よかった点・取り入れたい点等を記入する。
- ピンクの付箋 → 課題と感じた点を記入する。
- 黄色の付箋 → 改善の手立てを記入する。

【青色】

よかった点
取り入れたい点等
を記入する

【ピンク】

課題と感じた点を
記入する

【黄色】

改善の手立てを
記入する

2 学習指導案の該当する部分に付箋を貼る。(グループ)

- ・付箋を読み、補足を加えながら、模造紙の該当する部分に貼る。

3 付箋を貼り終えたところで、枠を越えた構造化を図る。(グループ)

- ・模造紙の空いている部分を活用し、フェルトペンで書き込んでいく。

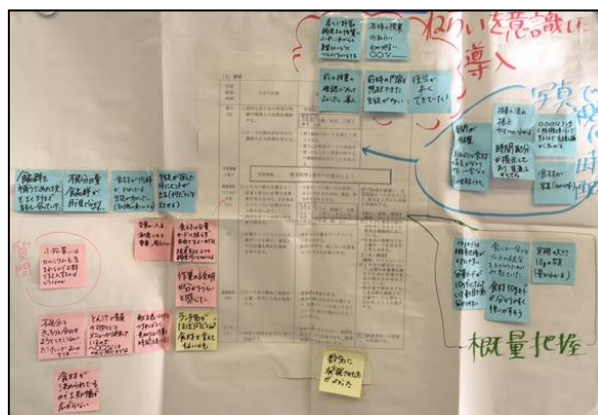
4 改善を図るためには、どのような手立てがよいのか話し合う。

- ・各グループで授業者に対する具体的な手立てを提案する。
- ・模造紙の空いている部分があれば、フェルトペンで書き込んでもよい。

付箋には
できるだけ具
体的な文章で
記述します。

「指導案拡大シート」による
方法では、生徒の視点、指導者
の関わりの視点から授業改善
のポイントが明確になります。

「指導案拡大シート」成果物





Q1

「ワークショップ型研修」ってどんな研修なの？

A1 主体的・協働的な学びの要素を含んだ研修です。一斉型（講義形式）の研修からの転換を図っていくことが重要です。



Q2

なぜ「ワークショップ型研修」なの？

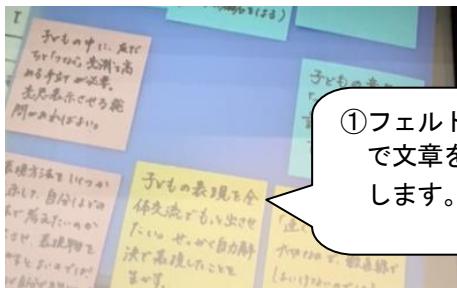
A2 新しい時代に求められる教員の資質能力を育成する上では、研修そのものの在り方や手法も見直しが重要です。その一つの方法として、「ワークショップ型研修」があります。



Q3

どのような進め方があるの？

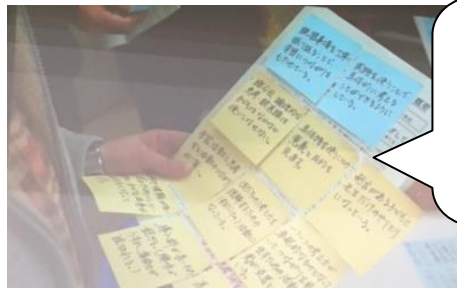
A3 付箋の書き方は、原則的にすべてのワークショップ型研修で共通しています。また、参加者には、事前に研修方法について、どのような手順で進めるのかという**プロセスイメージ**と、どのような成果物ができればよいのかという**ゴールイメージ**を具体的に伝えることが大切です。



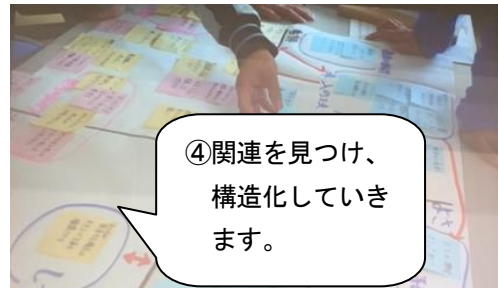
①フェルトペンで文章を記述します。



②記述内容を紹介しながら付箋を貼っていきます。



③付箋を手元に広げておくとやりやすいです。



④関連を見つけ、構造化していきます。



Q4

どのような時に有効なの？

A4 ワorkshop型研修は、授業研究の活性化に有効です。研修の様々な場面で活用できますが、今後、授業研究の協議の進め方を紹介していきます。



ワークショップ型授業研修の利点は・・・

- ①限られた時間の中で全員が意見を述べるすることができます。
- ②若手や教科が異なる教員も意見を述べやすいです。
- ③授業のよさや成果、問題点、助言や改善策がバランスよく出されます。
- ④授業参観の視点に沿って検討がなされます。
- ⑤成果や課題が形となって残ります。

ぜひ、お試しください。